〔参考資料〕

昭和52年度 臨床相談技術共同開発事業報告

1) 民間相談機関における臨床技術について

——就園前障害幼児の指導技術を通して——

その2 母親のニードの明確化

家庭生活研究会
村瀬和子・植村規代
酒井政子・小倉治子
奥井房子・宮崎徳子

1. はじめに

相談機関における臨床技術について考えるとき，遊戯面接やカウンセリング，その他の心理的指導技術の向上をはかることと同時に相談機関の役割・機能・活動とは何かをクローズアップさせ，それによって一般の民間相談機関の役割をより明確にとらえていこうとすることも必要であると思われる。

本研究では，前回に続き，次のような臨床仮説をたて，その仮説に照らして，相談活動の実際を分析・吟味し，その機能と臨床的意味を考察していきたい。

今回はそのうち，「母親のニードの明確化」について考察する。

2. 序　論

(1) 臨床的仮説

A）相談所は，クライエントの全生活の投影の場であり，そこでの学習を通して，象徴的ないし現実的レベルで実生活上の問題にアプローチする。これは，クライエントのかかえるすべての問題を，原則として切り捨てないこと，したがって特定の役割だけに限定されないことを意味する。

B）相談所における全クライエントと全スタッフは，潜在的に集団を構成し，この集団内で，個人個人がその多様性に応じてどのような活動を選ぶかが，クライエント自身およびスタッフの判断で決められる。

(2) 今回の研究報告の焦点

当相談所への来所ケースの中で最も多いのは，就園前障害幼児のことばの遅れに悩む母親と子どもである。

"ことばがなかなか育たない"という現状の中で，子どもの発達に疑問を持ち，やがて不安にかられて多くの母親は，医療機関・治療訓練機関・相談機関・保健所などを訪れる。そしてそこで，子どもの状態に即して診断・助言・指導などをうけるのであるが，機関の機能・性格を反映してさまざまな対応が行われている。

こうした母親と子どもへの対応としての相談機関の役割・機能・活動を考察するために，今回は，先に述べた臨床仮説に基いて，相談所を生活の投影の場と設定し，クライエントのかかえるすべての問題を原則として切り捨てないこと—という視点で，実際に相談活動を行うとき，母親のニードとしてどのような問題がとらえられるかを明確にしようとするものである。

3. 予備研究

(1) 予備研究の目的

来所する母親のニードをできるだけ構造的かつ網羅的にとらえるため，あるグループの一年間の面接記録に基いて，母親の発言を分類整理し，ニードの評定項目を設定することを目的とした。

(2) 予備研究の対象と方法

この予備研究の対象は，次のようなものである。

子どもの問題で来所した母親7名のグループ

・面接期間は，最近の約1年間

ただし，ケースDは半年で終了（入園のため）

ケースF，Gは途中参加している。

・面接形式は，週1回　1時間30分（面接担当者1名）

・面接記録は，面接終了後，担当者が各メンバーの主な発言を内容中心に記録したものである。

(3) ニード項目の暫定的設定

上記の面接記録に基いて，まず主な発言を内容別に大きく分類して，大項目を得た。

次に各発言を大項目のいずれかに分類し，さらに大項目ごとに，その発言内容を分類整理して小項目を設定した。大項目・小項目は第2表に示すとおりである。

第1表　〔ケース一覧〕

ケース	来所時の子どもの年齢	家族構成	主訴	子どもの状況	発達指数 一津守式一（テスト時年齢）
A	3：5	父　35歳 母　31歳 妹　8ヶ月	・ことばの遅れ ・話しかけても知らんぷり	精神発達遅滞 自閉傾向	45　（4：4）
B	3：5	父　29歳 母　25歳 姉　5歳	・ことばの遅れ ・入園の不安	言語発達遅滞 自閉傾向	50　（3：9）
C	3：3	父　34歳 母　34歳 弟　8ヶ月	・ことばの遅れ	言語発達遅滞 情緒不安定	56　（3：6）
D	2：11	父　41歳 母　42歳 姉　14歳 兄　10歳	・発達の遅れ ・特にことばが少なく文章にならない	精神発達遅滞 全体的発育不良	61　（3：2）
E	3：6	父　38歳 母　35歳 兄　10歳	・ことばの遅れ ・落ち着きがない	言語発達遅滞 自閉傾向	91　（3：8）
F	4：1	父　42歳 母　31歳 兄　6歳	・ことばの遅れ	精神発達遅滞	30　（4：7）
G	3：2	父　32歳 母　32歳 兄　6歳	・ことばの遅れ	全体的発育不良 精神発達遅滞	54　（3：4）

第2表　母親の発言の内容分類

〔子どもの現実状況の把握・理解について〕	
・発達の遅れ（ことばの遅れ）に対しての不安	・ことばが遅い，排尿が自立していない，どうしてかと不安でたまらない，ノイローゼになりそうだ。 ・脳に障害があるのではないかと思うが，そのことを考えるとカーッとしてしまう，考えないことにしている。 ・知恵遅れではないかと言われとてもショックを受けた，そうではないかという不安があるからだと思う，それからは子どもを外に出せなくなった。
・普通の子と違う　異常性に対する怖れ	・普通の子と何か違う。 ・確かに普通の子と違うんだなぁと思う。 ・普通の子はこんなことしないのではないだろうか，やっぱりおかしいのではないか。
・子どもの現在の状態・発達レベルについての吟味・明確化	・オモチャで遊ばない，まとまった遊びができない，書かない。 ・子どもの中にいることはできる，離れて一人で遊んでしまう，他の子にやられっ放し。 ・しゃべらない，発声が少しふえている，単語が少し言えるだけ，発音がはっきりしない。

	・おちつかない，おびえやすい，頻ることが多い，神経質で細かいことを気にしてこだわる。 ・排尿が自立しない，おはしが使えない，手で食べてしまう。
・子どもの行動の意味が理解できないいらだち	・子どものすることが全くわけがわからなくてイライラする。 ・大声をあげて夜中でもピョンピョンとびつづけてうるさくてやりきれない。 ・終日泣きっ放しでうるさくてたまらない。 ・サーッとどこかへ行ってしまうので目が離せず疲れてたまらない。 ・言うことが理解できないのかてこずることが多くカーッとする。
・子どもの行動の意味についての洞察を述べ確認を求める	・小さい子をいじめるのはやきもちのようだ。 ・父親のパジャマを手放さないのは，寂しいからだろうか。 ・噛むのは思うようにいかない時のようだ。 ・子どもに抱きついたりさわったり関心がでてきたのではないかと思うが。 ・抱きどおしで下におろすとどこでも寝ころがって泣いて困るが怖いのだろうか。
・子どもの変化・成長を述べ確認を求める	・遊びが広がっている。 ・子どもに対してやり返しができるようになった，外で遊ぶようになった。 ・大人に声をかけたりはたらきかけるようになった。 ・ことばが増えた，発音がはっきりしてきた，聞き分けが良くなった。 ・元気になった，笑顔がいつも見られるようになった，夜泣きがなくなった。 ・オムツがとれた，スプーンで食事ができるようになった。
・子どもの変化・成長のなかなか認められない重さ 他児への羨望	・ちっともことばが出ないのでホトホトいやになる。 ・ことばの増えが思わしくない。 ・うちのはちっともパーッと変わらない，変わってくれたらと思う。 ・変化のある子はいいねェ。
・診断の確認・将来の見通しについて	・自閉のようなところもあるがそうでもないと思う。 ・境界位の発達だと思うが障害児に入るのだろうか。 ・こういう発達の遅れはとり戻せるだろうか残るだろうか。
〔子どもへの接し方・教育について〕	
・子どもにどう接したらよいのか分らない，混乱してしまう	・近所の子と遊ばせようとしても遊ばない，教えても覚えない，どうしてやったらよいのか分らなくてカーッとするばかりだ。 ・外へ遊びに出るがいじめられっ放しだ，そのせいか家で弟をいじめて危なくて仕方ない，どうしたらよいか

	とノイローゼになりそうだ。 ・外遊びをできるだけさせるようにはしているが，どこへ行ってしまうか分らないのでついて歩くだけでヘトヘトだ。
・自分の子どもへの接し方の吟味	・〝ダメッ〟と言い通じだ，言いたくないが危ないので言わないではいられない。 ・大きい声で〝ダメッ〟と言うとやめるが私を見ると身構えておびえるようすがある。 ・叱りすぎか〝こわい〟と子どもがよく言う，厳しすぎるのかしら。 ・手のかけすぎか，甘やかしすぎか。 ・まどろっこしくてつい手助けしてしまう，少しやりすぎだろうか。 ・ことばがないので私もいつも黙って歩いてしまうがいいのだろうか。 ・子どもがかんしゃくをおこすとうるさいのでいつもぶつが……。
・子どもの具体的な行動にどう対処すればよいか	・排尿のしつけ，食事（偏食，手で食べる。他の人のとの区別がつかない） ・ことばの育て方，発音がはっきりしない。 ・気になる行動―戸のあけたてを繰り返す。奇声をあげてとび続ける。泥を食べる。噛む。ふわふわしたものをこわがる。 ・泣き続ける。弟をいじめる。テレビばかり見ている。外に遊びに出ない。
・子どもへの接し方についての洞察を表現し，確認を求める	・きつく叱ってもその時だけですぐまたやる。 ・ほめたら泣きやんだ。 ・目を見て話すとよく応じてくれる。 ・〝ヘリコプターよ〟と話しかけたら発語した。放っておいたのがいけなかった。 ・親の気持が安定していると子どもの発音がはっきりする。 ・やれないと決めていてやらせなかったことを他の子の真似をしてやった。 ・外遊びに出すと調子がよい。 ・遠足をあんなに喜ぶとは思わなかった。 ・ことばは言わせようとするといやがって言わない。
・子どもに適した教育について	・繰り返し経験している中で少しずつ覚えるようだ。 ・刺激があったら関心を見せた，刺激が関心を育てるんですね。 ・親のエゴを押しつけてはならないと思った。 ・いろいろな経験をして育つ。 ・できない子に〝ダメッ〟と叱るのでなくまわりの子に助けることを教えればよいと思う。
〔子どもに対する感情について―母子関係―〕	
・子どもの状態・行動に対する腹立ち，苛立ち（否定感）	・子どものやることにかんしゃくがおこる，頭にくる，やりきれない。

	・子どもがちゃんとやらないのでイライラしてたまらない ・あまり泣くのでうるさくてノイローゼになりそうだ。
	・子どもがおちつかないし悪いことばかりする，おこり通しだ。
・子どもの存在に対する拒否感	・しょっちゅうこの子がいなければと思う，そうしたら苦労はないのに。 ・この子がいなければと思う。 ・こんな子いらないとけとばしてしまう。
・子どもを受け入れられない自分に対する嫌悪感	・私っておそろしい女だと思う。 ・おこってばかりいて夜になると悪かったと思う。 ・子どもに対してカーッとしてしまう，いけないと思ってもおさえられない。 ・子どもがちゃんとしないとイライラする，自分だってちゃんとしていないことがあるのにとわがままだと思う。
・自分の性格についての悩み	・子どもが父親といると私といるときには見せない充実感を見せる，自分のことをもっと考えないといけないと思う。 ・いろんなことを感じすぎるのか，くよくよ考えて眠れない。
・子どもの気持・感情をとらえ，表明する	・この頃〝お母さん〟と呼びかけるのが目立ちこたえると喜ぶ。 ・頭をすり寄せて来たりひざにのったり甘えるようになってきたみたいだ。 ・自分でできないと私のところへ助けを求めて来る。 ・私がおこるととても不安そうなようすをする。 ・〝ママ〟とよく私のところへ寄ってくるようになった。 ・留守番をさせて私が帰ってくると喜んでとびついてくる。
・母子関係の充実感・母親としての自信の表明	・子どもが私によくくっつくようになった。 ・抱いてやると喜ぶ，子どもがかわいい。 ・子どもが父親より私につくようになった。 ・私にキスをする，私を守ろうとしてくれる。 ・何もできなくても良い，と思う。 ・ことばは遅いけれども良いところもある。
〔家族関係について〕	
・父親に対しての不満	・子どもしつけようと思うのに父親が甘やかす。 ・帰宅を子どもと一緒に待っているのに遊んで遅く帰ってくると腹が立つ。
・同胞関係をどう扱ったらよいかの悩み	・弟をいじめて危なくて困る。 ・この子を連れて出るのを他の兄弟がとても気にする，ひがむ。 ・この子に手がかかり兄には我慢ばかりさせていたせいか私に要求しなくなってしまった。

	・兄がこの子のことでひどく友達に気を使う。 ・妹の方が反応があるのでかわいくて，つい妹ばかり気が向いてしまう。
・姑の干渉に対する悩み	・ことばを教えないから育たないなどと干渉されるのがいやだ。
〔近隣社会との関係について〕	
・近所の人の無理解・好奇の目などに対する悩み	・子どもを外に出すと人に見られるようで外に出せない。 ・〝知恵遅れじゃない？〟と言われショックで子どもを外に出せない。 ・外で子どもが奇声を出すと人が見るので恥ずかしい。 ・親のしつけがなっていないと他人に説教されくやしかった，分ってもらえない。
・近所の子とうまく遊べない悩み	・この子が反応しないので近所の子に遊んでもらえない。 ・近所の子にやられっ放しでうまく遊べない。 ・親が見ていないといじめられる，危なくて目が離せない。 ・よその子にやられてもやり返せず子どもが耐えているのを見るのは切ない。
〔医療機関との関係について〕	
・受診するのがこわい	・脳に障害があるのではないかと思うがそのことを考えたくない。 ・脳波をとるよう言われたがこわくて行く気になれない。 ・病院に行ってまた子どもが不安定になってはと思い行く気になれない。 ・病院は結局何もしてくれない。
・受診の必要性について	・脳波をとった方がよいのだろうか。 ・水がスーッと飲めないが検査してもらった方がよいだろうか。 ・発声が不自然だが検査してもらった方がよいだろうか。 ・眼が斜視のようだが検査してもらった方がよいだろうか。
・どこへ行って診てもらえばよいか	・こういう子を治療してくれる歯医者はないか。
〔他の通所機関との関係について〕	
・他の機関への通所についての迷い	・近くの障害児グループへの通所をすすめられたが。 ・児童館への通所は適切だろうか。
〔入園に関して〕	
・園の選択についての迷い	・入園をさせるか，在宅にするか。 ・福祉施設への入所が適切ではないか。 ・３年保育と２年保育とどちらが適切か。 ・幼稚園か保育園か。

	・園の教育方針として統合教育をうちだしている所がよいか。 ・障害児教育の経験のある所の方がよいのではないか。
・入園に対しての不安	・能力として入園できるだろうか。（入園テストができない） ・園は障害のある子を受け入れてくれるのだろうか。 ・入園しても子どもが適応できるだろうか。 ・いじめられないが，ついていかれるか。 ・他の子と遊べないと思うが……。 ・乱暴して人にけがをさせないか。 ・泣かされて帰って来てしまうのではないか。 ・つきとばされたりしてけがをしないだろうか。 ・母親が障害児の親として園でやっていかれるだろうか。 ・先生や友達に迷惑をかけないだろうか。
〔その他〕	
・福祉制度について	・福祉金が出ると聞いたがもらう気になれない。 ・愛の手帳について知りたい。
・障害児に関するマスコミの情報の整理	・新聞の記事，障害についての講演，本などについて，〜と書かれてあったが家の子の場合はどうだろう。

第2表は，担当者が，治療過程の進行を感じとりながら，ほぼ時間的経過に沿って作成したもので，特に大項目〔子どもの現実状況の把握・理解について〕・〔子どもに対する感情について—母子関係—〕については，治療過程の進行に若干関係のある配列になっていると思われる。

本研究では，ニード分類に目的をしぼるため，以下，時間経過は捨象するが，治療的変化・ニードの変化過程を知るためには，今後の参考になる。

(4) ニード項目の確定

以上の手続きによって得られた大項目・小項目をニードの観点から取捨選択し，大項目ごとに構造化した。構造化にあたっては，ニードを次のような次元に分けてとらえた。

① 明らかな課題解決的志向性をもった問題意識（道具的問題意識〝〜のために〜する〟がはっきりしたもの）ではないが，感情として，不安・困惑などが表現されるもの。いわば潜在的ニードというべきものである。

② 明らかな課題解決的志向性をもった問題意識が表明され，当相談所の援助によって現実に何をどうしたいと表明されるもの（理念的に当相談所の機能として援助が期待されるもの）。

a 面接場面内の助言，情報提供を求めるもの

b その他の機能を求めるもの

③ ②の問題解決のために，当相談所以外の対象に働きかけるニードとして表明され，そのための協力が（潜在的・顕在的に）求められるもの

構造化は，序論の臨床的仮説および前回報告の観点をふまえ，スタッフ5名の協議で行った。その構造に基き，小項目については各スタッフの経験により，必要な項目を追加した。

以上によって得られた大項目・小項目を本研究のニードチェック項目として確定，用いることとした。

（確定されたニードチェック一覧表は，本研究の結果のところで示す。〔第3表〕）

4. 本 研 究

(1) 目 的

ことばの遅れを主訴として，民間相談機関に来所した就園前障害幼児の母親のニードを明確にすることが，本研究の目的である。

(2) 方 法

予備研究で得られたニードチェック項目を用い，5名のスタッフが自ら担当した母親面接例（27例）について，ニード評定を行う。

(3) 対 象

最近のある2年間における，継続期間6カ月以上の就園前障害幼児のケース全数

第3表　母親のニード

ニードチェック項目 ＼ ケースの処遇		グループ	グループ↔個人	個人	合計	%
〔A　子どもの現実状況の把握・理解の問題〕						
① ★	発達の遅れ（ことばの遅れ）に対する不安	16	3	5	24	88.9
★	子どもの行動の意味が理解できない苛立ち	14	5	5	24	88.9
	（普通の子と違う）異常性に対する怖れ	4	3	3	10	37.0
	子どもの変化・成長をなかなか認められない焦り	8	3	2	13	48.1
	他児への羨望	5	1	3	9	33.3
	将来の不安	2	2	2	6	22.2
② a★	子どもの発達状態について現状を知りたい	12	5	2	19	70.4
★	子どもの気持や行動の意味が理解できないので知りたい	11	5	4	20	74.1
	診断して欲しい，普通とちがうのではないか	3	2	4	9	33.3
★	子どもの発達の遅れ（ことばの遅れ）の原因を知りたい	8	3	4	15	55.6
	子どもの今後の発達の見通しが知りたい	7	2	4	13	48.1
	プレイルームでの子どもの様子が知りたい	1	1	2	4	14.8
b	客観的資料（知能テスト・発達テスト）が欲しい	2	0	1	3	11.1
	プレイルームでの子どもが見たい	1	1	0	2	7.4
〔B　子どもに対する接し方の問題〕						
① ★	子どもにどう接したらよいのか分らない，混乱してしまう	11	4	4	19	70.4
★	子どもの状態・行動に対する苛立ち・腹立ち・怒り	12	5	3	20	74.1
	子どもに適切に接することができない自分への嫌悪感	6	1	0	7	25.9
★	子どもを順調に育てられなかったのは自分の育て方のせいか	8	4	4	16	59.3
	状況として接する時間がとれない悩み	2	2	0	4	14.8
② ★	この子に合った接し方を知りたい（自分の接し方でよいのだろうか）	11	5	4	20	74.1
★	こういう場合の子どもへの対処の仕方を知りたい（具体的な問題行動・異常行動に関して）	14	5	5	24	88.9
〔C　家族関係の問題〕						
① ★	父親の非協力に悩む	9	3	2	14	51.9
★	同胞との関係に悩む	9	3	2	14	51.9
	その他の家族関係に悩む（姑他）	4	2	1	7	25.9
② a	家族の問題を処理するにはどうしたらよいか	6	3	2	11	40.7
b	（自分以外の）家族に会って欲しい	0	1	0	1	3.7
③	家庭に来て解決して欲しい	0	1	0	1	3.7
〔D　近隣社会との関係の問題〕						
① ★	近所の人の無理解好奇の目などに悩む	15	2	3	20	74.1
★	近所の子とうまく遊べないので悩む	13	3	3	19	70.4
	適切な遊び場所がなくて悩む	1	0	1	2	7.4
	適当な遊び友達がいなくて悩む	4	1	2	7	25.9
	子どもの障害について話し合える人がいなくて悩む	2	1	0	3	11.1

②	障害を理解してもらうためにはどうしたらよいか	0	0	0	0	0
	近所の子とうまく遊べるようにするにはどうしたらよいか	4	2	2	8	21.6
	適切な遊び場所がないがどうしたらよいか	0	0	1	1	3.7
	適当な遊び友達がいないがどうしたらよいか	3	1	1	5	18.5
③	地域の障害児を持つ仲間と連帯したい	0	0	1	1	3.7
〔E　医療機関・その他通所機関との関係の問題〕						
①	受診するのがこわい	2	2	1	5	18.5
	医療不信，行っても仕方ない	3	0	0	3	11.1
②	受診が必要だろうか	9	1	2	12	44.4
	どこへ行って診てもらえばよいか	4	1	1	6	22.2
	他の機関への通所について適切かどうか知りたい	6	3	1	10	37.0
③	適切な医療機関を受診のために紹介して欲しい	3	1	1	5	18.5
	他の通所機関へ紹介して欲しい	0	0	1	1	3.7
〔F　教育・福祉制度についての問題〕						
①	教育制度に対する不満	2	0	0	2	7.4
★	幼稚園・保育園への入園に対する不安	17	5	5	27	100.0
	その他の通園施設への入園に対する不安	2	0	0	2	7.4
	福祉金・愛の手帳などの受益に対する抵抗・不満	4	1	1	6	22.2
	園に対しての不満	3	3	0	6	22.2
② ★	園の選択についての意見を聞かせて欲しい	16	5	4	25	92.6
	教育制度に関して知りたい	1	1	2	4	14.8
★	幼稚園・保育園の情報が知りたい	15	3	5	23	85.2
	その他の通園施設の情報が知りたい	3	0	1	4	14.8
	収容施設の情報が知りたい	0	1	0	1	3.7
	園と子どものことについてどう話し合ったらよいか	1	0	0	1	3.7
	福祉金・愛の手帳などの受益について知りたい	1	0	0	1	3.7
③	園へ紹介して欲しい	6	1	2	9	33.3
★	園と子どものことについて話し合って欲しい	12	4	2	18	66.7
	その他の施設へ紹介して欲しい	0	0	0	0	0
	制度の改善へ向かって運動する	0	0	0	0	0
〔G　その他〕						
①	（マスコミの）情報に接してショックを受けて不安になる	5	0	1	6	22.2
② a	情報に接したがどういう意味がはっきりさせたい	4	1	1	6	22.2
b	本を貸して欲しい（紹介して欲しい）	1	1	1	3	11.1
	発語を促す治療教育をして欲しい	0	1	0	1	3.7
	母親のカウンセリングを受けたい	1	0	0	1	3.7
	通所日数を増やして欲しい	0	0	1	1	3.7
	面接時間を適当な生活時間に合わせて欲しい	2	1	4	7	25.9
	相談料の減額あるいは免除をして欲しい	0	0	0	0	0

第4表　各大項目についていずれの小項目にも該当しないケース数

大　項　目	A	B	C	D	E	F	G
無　該　当 ケース数(%)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (25.9)	1 (3.7)	9 (33.3)	0 (0.0)	16 (59.3)

・個人処遇のケース……5例
・グループ処遇のケース……17例
・個人⇆グループの
　移行の行われたケース……5例

(4) 結　果

各ケースごとの評定の結果は，考察で必要に応じて述べることにし，個人処遇，グループ処遇，個人⇆グループ処遇の各々についての各ニード項目の該当数は上記のようになる。

なお，全体の傾向として，三者の間に顕著な差は見られないので，%は，合計についてのみ記した。

大項目別にどのようなニードが優位であるかということは，本研究からは直接導きだすことはできない。どのようなニードが多いかということは，小項目ごとについてのみ言えることである。

特に，多くのケースに見られるニードは，★印で示した。

大項目に関して問題にしうるひとつの点は，ある大項目に属するどの小項目にも該当しないケースがどれくらいあるかということである。そのケースにとっては，その大項目自身が問題にならないのではないかということが考えられる。そこで各大項目について小項目のいずれにも該当しないケースについて調べると，第4表のような結果になった。

大項目に全然該当しないケースは〔C．家族関係の問題〕で7例（25.9%）〔D．近隣社会との関係の問題〕1例（3.7%），〔E．医療機関・その他の通所機関との関係〕9例（33.3%），〔G．その他〕16例（59.3%）である。A，B，Fについては，全てのケースがニードを表明していたということになる。

C，Eについて該当しないケースを個別に調べてみると，次のようなことが言える。

〔C．家族関係の問題〕に該当しないケースは，いずれも障害児がひとりっ子かあるいは同胞がいても年齢が離れているものであった。父親，その他の家族との関係については，個々に様々でここでは言及しない。

〔E．医療機関・その他の通所機関との関係の問題〕に該当しないケースは，既に医療機関とつながっているもの，あるいは受診の必要を感じなかったものなどであった。

5. 考　　察

〔A．子どもの現実状況の把握・理解の問題〕

〔B．子どもに対する接し方の問題〕

ほとんど全ての母親が，発達の遅れ（ことばの遅れ）に対しての不安にとらわれ，子どもの行動の意味が理解できない苛立ちをもち，これが子どもの発達の現状を知ろうとするニードや，その気持や行動の意味を知りたいというニードに結びついている。（%以上）

また%以上の母親が，子どもにどう接したらよいかわからずに混乱し，日々の生活の中で直面する子どもの状態・行動に対して苛立ち，子どもに合ったあるいは事態に応じた対処のしかたを知りたがっている。具体的に例をあげると「ことばが通じない」「反応がとらえられない」「遊びの範囲がひろがらない」といった発達上の問題から，「夜眠らない」「座って食事をしない」「手で食べてしまう」「排尿便のしつけが困難だ」といった生活習慣の問題，さらに「泥を食べる」「目を離すとどこへ行ってしまうかわからない」「奇声をあげて夜中までとびはね続ける」「手を叩き続ける」「特定の物に固執する」「落ちてけがをしてもこりずに高い所に登ることを繰り返す」といった行動上の問題まで，さまざまである。

これらはそれぞれの子どもに即して具体的に考えなければならない課題であり，最も基本的なニードだと考えられる。

また，½以上の母親が「子どもの異常性に対するおそれ」を訴え，「子どもの変化成長をなかなか認められない焦り」「他児への羨望」（同様に通所している，より発達している子への羨望を含む）を抱き，「子どもを順調に育てられなかったのは自分の育て方のせいか」など屈折した気持をもっていることも注目される。このような屈折した気持が顕在的ニードとしてどのように表われ，あるいは顕在的ニードのニュアンスにどのような影響を与えているかは今後の課題であるが，そうした気持への対応は相談機関として軽視できない問題と考えている。

また「（普通の子と違う）異常性に対するおそれ」は，ケース毎に見てみると11例中自閉傾向のあるケース8例，重い発達の遅れ2例の10例であり，母親の自閉性に

対する困惑の強さがうかがえる。「精神病ではないか」「狂っているのではないか」「理解し難い！」と訴えることばには，母親の重い疲れと切実な響きがあった。（しかし逆に自閉的であれば回復の余地があるのではないかと望みをいだくケースもある。）

その他，ＡＢの範囲で該当の少ない小項目についても各々に考察すべき点はあるが省略する。

〔Ｃ．家族関係の問題〕

〔Ｄ．近隣社会との関係の問題〕

主として社会学的に問題になる点であるが，父親の非協力に悩むケース，同胞との関係に悩むケースが各14例で半数以上であった。

ケースを個別に見てみると，母親の子どもに対する不安・焦燥に対して「心配ない」という父親の反応は，慰めとしてよりも無理解・逃避として，まともに受けとめてもらえないという母親の訴えになっている。疎通性が悪かったり理解力の低い子どもに対して少しでもより良い成長をと終日とりくむ母親は，心配も重なって非常に疲れており，行動面での協力をも父親に求めざるを得ない状態にある場合が多かった。また，子どもに対して真剣であればその接し方についても父親に具体的な協力を求め，父親が子どもの障害の問題を，共ににになうことを強く求める発言が多かった。

また，同胞との関係の悩みとしては，弟妹に手のかかる場合は，状況として母親が障害のある子に充分接することができない。弟妹との葛藤・嫉妬や乱暴への反応の難しさ，兄姉のある場合には，障害のある子への母親のかたむきが，彼らを情緒的に不安定にし，さらにぜんそく，問題行動を発生させる原因になっているケースも多かった。

これらが家族の問題の処理をどうしたらよいかを教えて欲しいと助言を求めるニードとして顕在化しているわけであり，子どもの障害が家族の生活全般に影をおとして，再調整のニードを強くしていることがうかがえる。

近隣関係で，「近所の人の無理解・好奇の目などに悩む」「近所の子とうまく遊べないので悩む」はそれぞれ重要なポイントであるが，それが「適切な遊び場所」「適当な友達」という観念には直接つながりにくいことが推測される。「近所の子が遊びに来てくれても反応がないので帰ってしまう」「遊びたがって出かけるがいじめられる」「遊んでもらえない」「突きとばされたりするので危くて外へ遊びに出せない」などいわゆる〝社会〟の人々の障害に対する無理解が問題になっている場合が多かった。

しかし母親の近隣関係での悩みが顕在的ニードとして結実することには必ずしも至ってはいない。これらの点で問題がないというわけではなく，むしろ現実の社会的問題意識や問題意識に結びつける発想が容易ではない，ないしは抑圧されているように解すべきかもしれない。

グループ面接過程においてはメンバーの共感や支持などで，感情的なこだわりが柔らぎ自由に動けるようになっていく場合が多く見られるが，社会的問題意識やニードとして顕在化して何らかの社会的課題解決行動に結びつく過程は，今後の研究を待たなければならない。障害児のための地域活動などに結びつく協力・連帯意識に至っては，なおのこと困難な過程を経なければならないであろう。

〔Ｅ．医療機関・その他の通所機関との関係の問題〕

医療機関に関しては「受診が必要だろうか」という相談が半数以上にみられる。個々には，脳波（4），耳鼻咽喉（言語の問題として舌の異常1，発音1，ハーモニカが吹けない1，吸えない1），眼科（2），精神科（異常行動1，大きくならない1，元気がない1）―重複しているケースもある―で脳波についての迷いが多く，また受診への抵抗感と必要性の迷いの中にいる母親が多くみられた。

〔Ｆ．教育・福祉制度についての問題〕

福祉制度，愛の手帳などの受益については抵抗感，不満が⅓以下，受益について知りたいというニードは1例で関心が低い。これは家庭の経済状態や子どもの状態にもよると思われるが，福祉制度に対する偏見の存在もうかがわれた。

教育・入園に関する問題は，身近に迫った具体的なこととして，当然のことながら強い問題意識・ニードが示されている。入園に関しての不安は，全ケースが抱いている。

相談機関がその面での協力を迫られていることが改めて痛感される。しかしここでも，より間接的な社会的・制度的問題意識や，それに根ざしたニードは必ずしも顕在化しておらず，従ってＤの場合と同様（実際には必要性があるわけであるから）相談機関側が配慮する必要性が検討されなければならないし，さらに親のニードが現実的に顕在化しうる過程の研究が課題になるであろう。

〔Ｇ．その他〕

その他に関しては，マスコミ情報の影響（¼），母親のカウンセリングを受けたいなど，社会的状況の反映として注目されるが，該当数も少ないので考察は省略する。

6. おわりに

今回の研究では，就園前障害幼児の母親の相談機関に

対するニードを明確にすることを試みたのであるが，母親面接の記録から面接担当者がそのニードを抽出するという方法をとった。従って面接者のとらえの枠組みの限界，視点の偏りがあり，結果の数値には面接者のフィルターが大きく影響している。

母親の発言自体も，面接者のかまえ，グループの場合はメンバーの発言の影響をまぬがれない。

本研究は，対象としたケース数も少なく，また一機関の例にすぎない。母親の現実に，より即したニードを明確にするには，さらに今後の研究が必要であろう。

なおこの結果は，因子分析を用いて最終報告に至るものであるが，それは次回にゆずり，本論の段階ではケース研究的検討と分類にとどめた。